

令和6年度 第3回 大磯町子ども・子育て会議 会議録

1. 日 時 令和6年10月25日(金)  
開会時間 午前10時30分  
閉会時間 午前11時30分

2. 場 所 大磯町保健センター 2階研修室

3. 出席者

【委員】

成田 麻紀 委員  
松井 節子 委員  
高橋 明子 委員  
加藤 敦子 委員  
佐藤 和宏 委員  
望月 真里子 委員  
加藤 恭子 委員  
石井 彩 委員  
尾里 育士 委員(会長)

【事務局】

齋藤 永悟 町民福祉部参事(こども政策・子育て支援対策本部担当)  
小林 琢哉 子育て支援課長  
高橋 正寿 子育て支援課副課長兼保育園・幼稚園係長  
山下 優弥 子育て支援係長  
竹内 茂高 子育て支援係主任主事

【欠席】

立花 ますみ 委員  
望月 展弘 委員  
高橋 聡子 委員  
芝 園枝 委員  
金子 智紀 委員

4. 傍聴者 なし

5. 議 題

- (1) 令和6年度の具体的な“声”を聴く取組み
- (2) (仮称)大磯町こども計画の策定について

6. その他

- ・今後のスケジュールについて

## **議題**

### **(1) 令和6年度の具体的な“声”を聴く取組み**

事務局から、【資料1】令和6年度の具体的な“声”を聴く取組み《まとめ》の説明をした。

<意見等>

なし

### **(2) 「(仮称)大磯町こども計画」の策定について**

事務局から、【資料2】「(仮称)大磯町こども計画」の素案(たたき案)及び参考資料1「(仮称)大磯町こども計画(こども版)」、参考資料2「(仮称)大磯町こども計画 実施計画書兼進行管理書」の説明を行い、今後、資料2を基に素案を作成し、再度、各委員から意見をもらうこととなった。

<意見等>

#### **【委員】**

重点事業の中で、例えば医療的ケア児のように、ライフステージで区切られない施策はどのように記載をする予定か。

#### **【事務局】**

医療的ケア児の場合は、乳幼児期から記載することも予想できるが、対象が多岐にわたるものは、最初の「ライフステージを通じた施策」に記載する予定である。

#### **【委員】**

学校のこども達や保護者の意見がたくさん挙がっているが、重要事業の中で学校に関することや教育に関することはどこに記載されているのか。また、教育委員会との関係はどのように記載をしていく予定なのか。

#### **【事務局】**

ライフステージで見ると、主に学童期へ記載することになるが、意見数が多く多岐にわたるので、今後、こども達の意見がどのように施策に活かされたのか、わかりやすく記載したい。

#### **【会長】**

教育委員会との連携では、2頁の「計画の位置づけと「こどもまんなか」で上手く記載することはできそうか。

#### **【事務局】**

教育委員会では教育大綱で基本的な教育方針を定めている。教育大綱や他の計画との整合性をとるためにも、素案になったら他の部署に照会をかける予定であり、照会後の意見を反映させていきたい。

#### **【委員】**

こどもの意見の中で、学校施設に関する意見が多いが、修繕や工事を行う予算については、どのように考えているのか。

#### **【事務局】**

学校の整備に関しては、多額の予算が必要なこと、学童が学校の施設内に設置されている状況もあ

り、教育委員会との調整も必要になる。国や県の補助があれば積極的に活用することもひとつである。また、こども達を含めた学童施設の環境の充実を望む声が多く届いているので、教育委員会とも調整を進めたい。

**【委員】**

こども達の“声”について、大磯中学校の人数が多く、国府中学校の人数が少ない理由が分かれば知りたい。

**【事務局】**

在籍数が違うことも大きな要因のひとつだが、実際に休み時間や放課後の時間に中学校に行ったところ、国府中学校の生徒は大磯中学校の生徒と比較すると、大人しい性格の生徒が多かった印象である。

**【委員】**

高校生の意見でも町の東西で雰囲気が違うと挙がっていたので、町職員の捉え方は間違いではないかもしれない。

放課後の居場所について、大磯地区の東光院で小学生や中学生の居場所があるときいている。そのような居場所は国府地区にはないのか。

**【事務局】**

大磯地区には東光院以外にもこどもの居場所があるが、国府地区のこどもの居場所については把握していない。一方、居場所づくりとして、国府支所などの活用についても庁内で意見が挙がっている。

**【委員】**

新しいものを誘致するよりも、既存の施設等を活用したほうが比較的早めに事業実施ができるため、検討してほしい。

**【会長】**

7頁からの基本理念やめざす姿、基本目標は、これからの事業の目標値を検討するためにも重要事項であるため、意見があれば伺いたい。

**【委員】**

これだけのこども達の声を集められたことは、町の人口規模を考えると素晴らしい。町職員の皆様の努力の賜物だと思う。こども達の“声”を上手に活かし計画に反映してもらいたい。

現計画の中の「子どもの心と身体の健康づくり」で、乳幼児の健診について触れているが、学齢期の健康診断の活用の明記がなかった。実際、学校では、養護教諭の先生をはじめ、健康診断の中から必要な人を精密検査に促す等のフォローアップを丁寧に行っている。生活習慣病になる要因として、幼い年齢から生活習慣があり、その生活習慣が大人になって生活習慣病の診断につながるケースが増えている。学校生活の中で生活習慣を見直していくことは重要であり、自殺対策の「命の対策」の授業も関係すると思われるため、今回の計画に盛り込めるか検討していただきたい。

**【会長】**

今の意見について、今回の計画に盛り込めるか検討してほしい。

**【委員】**

若者施策に重点をおき、青年期とポスト青年期に力を入れていくという説明があり大事だと思った。“声”を聞く取組みの中で、若者の数は決して多くはないが、それでもよく頑張って“声”を集めたと思う。“声”のまとめも努力の賜物だと感じている。

一方で、町の若者像が捉えにくく、町に若者が何人くらい住んでいるのか、町の学校に通っている人数や町から出勤している若者の割合がわかりづらい。今回の計画で、どのような若者が町で暮らしているのか、少しでも記載があるとよい。

**【会長】**

町の若者像について、事務局が何か感じているところはあるか。

**【事務局】**

ニーズ調査等を見ると、町の若者像として、進学や就職等を理由に町から転出し、その後、結婚や出産を経て帰ってくる方が多い傾向があると捉えている。若い時に自分のこども達をここで育てたい、戻ってきたいと思ってもらえるような若者像をめざしたい。

**【会長】**

他に、町の若者について、感じることはあるか。

**【委員】**

私の周りには、昔から町に住んでいるママ友が多い。一方で、コロナがきっかけで、転入された方も一定数いるようである。二宮や大磯の駅前で新しい飲食店がオープンするとSNSに投稿する若者も見受けられるが、そのような若者は他市町からの転入や観光客ではないかと推測している。また、町には、子育て世代の勤め先が少なく、平塚に通っている人も多いと聞く。

**【会長】**

こどもと触れ合っている中で感じることはあるか。

**【委員】**

こども達も町の自然環境がとても良いと感じているようである。先日、こども達の登校を見守っていると、猫じゃらしの穂とひつつき虫で遊んでいた。スマホなどが身近な時代の中でも、町のこども達は、恵まれた自然環境の中で育っていると受け止めている。

**【会長】**

大磯町の良さを活かした形でこの計画を作っていきたい。

**【委員】**

こどもの“声”をしっかりと聴いたことは、取組みとして素晴らしい。町の人口規模としては決して多くはないが、その分、こどもの“声”を聞き取れることとフィードバックしやすいことが強みであり、それを活かした施策を実施してもらいたい。

これからの「こども版」の作成について、このイメージでも良いとは思いますが、実際に、こども達に届けるためには、紙媒体以外にも何か必要だと思っているが、事務局で何か考えはあるのか。

#### 【事務局】

町内の学校の協力が前提となるが、町内の学校では子ども達がタブレットを活用し授業を行っている。そのため、タブレットを活用した配布や小・中学校の保護者宛てに使用されているメールツールなどの活用も検討している。

#### 【委員】

紙媒体だけの告知や周知では、全ての子ども達に行き届くのか、疑問に思った。

#### 【委員】

大磯小学校では、データをいただければ学校から各家庭に配信し、保護者から子どもへ転送してもらうことも可能である。

#### 【会長】

届けられた情報がどのように理解され活用されるのか、受け手のことを想像することも大事であり、仕掛けのアイデアも含め、学校現場でも活用できるものが作成できると良い。

#### 【委員】

電子媒体で発信という中で、パブコメの募集、計画の策定状況、みんなの“声”の反映状況など、計画策定の途中経過について、何か考えはあるか。

#### 【事務局】

年末に子ども達を中心としたイベントを企画している。そのような、子ども達が集まる機会を捉えて、計画についての情報発信だけではなく、一度子ども達にフィードバックするような機会をつくる予定である。イベントについては、もう少し詳細が決まり次第、委員の皆さんにもお知らせしたい。

#### 【会長】

今後、本日いただいた意見を踏まえ、事務局で「素案（たたき案）」を「素案」として整理するので、再度、各委員から御意見をいただきたい。

#### **その他**

・今後のスケジュールについて

今後、素案を確定させ、11月末から12月末にかけてパブリックコメントを行う。また、次回の子ども・子育て会議は令和7年の1月を予定しており、計画案の審議・答申を経て、2月に計画の完成をめざす。

以 上